第４章　都市づくりの目標

第4章　都市づくりの目標

松島町が目指すべき都市づくりの目標、将来都市構造を以下に示す。

4－1　都市づくりの目標

4－1－1　都市づくりの将来像

松島町では、平成28年3月に松島町長期総合計画を策定しており、計画の基本理念を「歴史・文化の継承と創造」としている。

この理念は、平成13年3月に策定された松島町長期総合計画の将来像を継承したものとなっており、日本三景の豊かな自然を背景として先人たちが築き上げてきた「歴史・文化」は、松島町の最大の特色・魅力であり、国際観光都市としての根幹を成すものであり、松島町の豊かな自然・景勝や歴史的建造物、伝統的な文化など、松島ならではの「歴史・文化」を次世代に継承していくとともに、産業や地域づくりの一翼を担う人材の育成に努め、松島らしい新たな「歴史・文化」を創造していく必要があるとしている。

そのため、本計画においても、その趣旨を踏襲するとともに、松島町の特性や課題等を踏まえ、都市づくりの将来像を次のように定める。

《都市づくりの将来像》

自然と歴史を継承し豊かな暮らしを支えあうまち・松島

～ もっと松島　ずっと松島 ～

《将来像を構成するキーワード》

自然と歴史を継承し・・・

松島は、美しい自然に恵まれており、豊かな自然を背景として先人たちが築き上げてきた歴史・文化は、松島町の最大の特色・魅力であることから、自然と歴史を大切にして次世代に継承し、松島を訪れた方が住んでみたいと思い、住民が住み続けたいと思えるまちを目指す。

豊かな暮らしを支えあう・・・

松島は、交通の利便性が高く、豊かな自然の恵みのもとで多様な産業が発展しているが、既に人口減少・少子高齢化に直面していることから、持続可能な発展を継続していくため、定住を促進するための住環境の充実やコミュニティの維持・強化、活力ある都市づくりに向けた新たな産業の誘導に努め、住民・事業者・行政の協働のもとで良質な暮らしを実現するまちを目指す。

《サブテーマ設定の考え方》

～ もっと松島　ずっと松島 ～

「もっと」松島の自然や歴史・文化、コミュニティを含めた地域の魅力を知り、大切にしてさらに質を高めていくことにより、「ずっと」松島に住み続けたい、松島の魅力とともに暮らしていきたいと思えるまちづくりを目指す。

4－1－2　都市づくりの目標

都市の将来像を実現するために、都市づくりの目標を次のとおりとする。

目標１：定住・暮らしを支える豊かな住まいの充実した都市づくり

都市部・農村部・山間部の地域の特性を生かした、人と自然が共生する土地利用に努めるとともに、交通利便性や仙台市に近接するという立地特性を生かした若者の定住促進の受け皿となる新たな住宅地の整備を図ることで、松島を訪れた人々が住んでみたいと思える、また住民が「住み続けたい」と思えるような子育て環境や高齢者が安心して生活できる住環境の充実した都市の形成を目指す。

目標２：都市基盤・地域産業の充実した活力ある都市づくり

三陸縦貫自動車道、国道45号、JR東北本線、JR仙石線等の充実した都市基盤及び豊かな恵みをもたらす松島湾や農業地域等を活用し、観光を軸に、新たな産業の誘導や地域産業の創出を図り、活力ある都市づくりを目指す。

目標３：日本三景松島の観光・交流と歴史・文化を継承する美しい都市づくり

歴史的・国際的に知られた松島湾の景勝と湾を取り囲む美しく豊かな自然を“海の松島”として、また内陸の豊かな山林や里地※1の自然を“陸の松島”として保全するとともに、内外の人々が集い、交流する文化の香り高い、美しい都市づくりを目指す。

目標４：災害に強い安全・安心な都市づくり

東日本大震災からの早期復旧・復興に取り組むとともに、これら災害の教訓を生かし、地震、津波、水害などの自然災害に対する防災対策及び減災対策等を進め、住民や観光客が安全安心に暮らせる都市を目指す。

目標５：地域コミュニティや協働の精神がもたらす親和の都市づくり

松島町が目指す都市の将来像を住民、事業者、行政等が共有し、各々の適正な役割分担のもとで都市づくりに努め、少子高齢化や人口減少、社会的な連携の弱体化等によりコミュニティが希薄にならないよう、松島を訪れる人を含め、松島で働く人・松島に住む人など、人と人の「心かよう」温かいまちづくりを目指す。

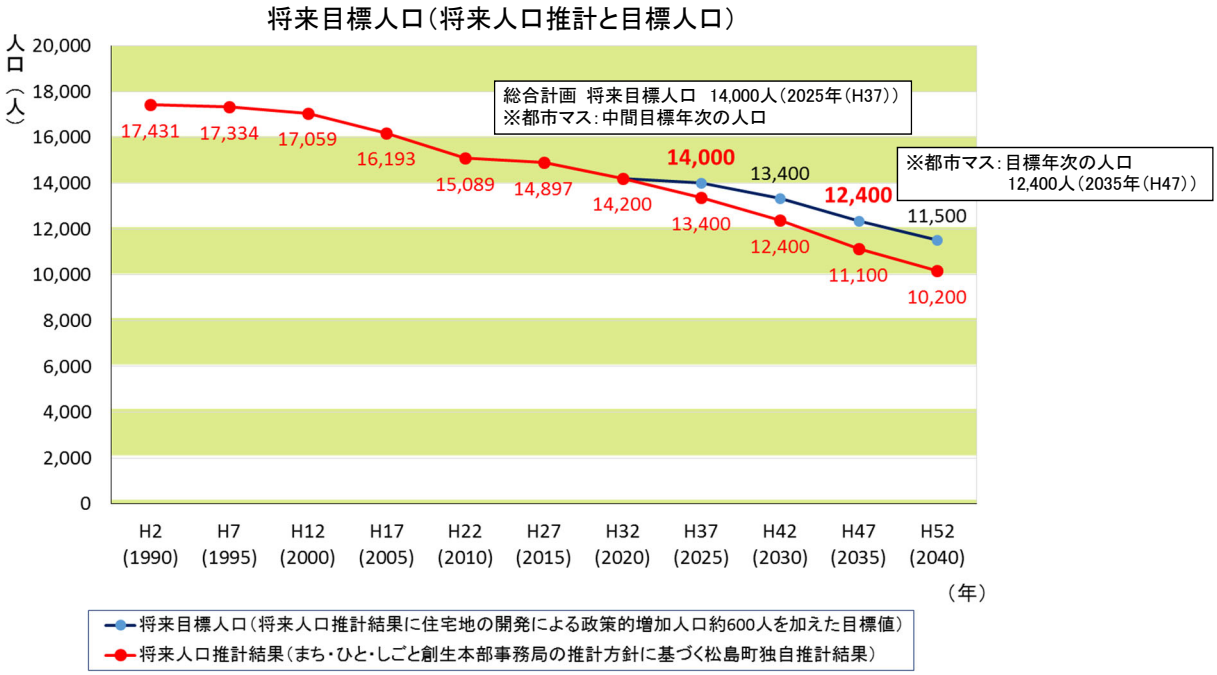
※1里地：里山とその周辺にある農地や集落などを含めた地域のこと。

4-1-3　将来人口

松島町長期総合計画では、定住促進に向けた住宅地開発や子育て環境の整備等の取り組み推進により人口減少を抑制することとしており、目標年次である2025年（平成37年）の将来目標人口を14,000人と設定している。また、同計画では、2035年（平成47年）の将来目標人口を12,400人と想定していることから、本計画においても同計画の想定人口と整合を図る。

目標年次と人口フレーム

	年次	想定人口
基準年次	2015年（平成27年）	14,897人
中間目標年次	2025年（平成37年）	14,000人
目標年次	2035年（平成47年）	12,400人



※資料：松島町長期総合計画

4-2 将来都市構造

4-2-1 基本的考え方

前項の都市づくりの目標を踏まえ、松島町の将来都市構造の形成に関する基本的な考え方は、次に示すとおりとする。

① 豊かな自然と共生する都市構造の実現

日本三景として知られる特別名勝松島を基本に、国際観光都市松島としての魅力を保全・継承し、豊かな自然環境と融合した都市構造の形成を図る。

② 少子高齢化・定住促進等に対応した暮らしを豊かにさせる都市構造の実現

仙台市に近接する特性を生かし、新たな定住環境の整備・充実による若者世代の定住促進を図るとともに、今後、更に進行する少子高齢化に対応した生活拠点の充実や移動しやすいネットワークの構築等、日常生活の豊かさを実感できる都市構造の実現を図る。

③ 広域交通基盤の活用による新たな活力を創出する都市構造の実現

三陸縦貫自動車道、国道45号、JR東北本線、JR仙石線等の広域都市基盤の整備・充実を活用した観光交流拠点や新たな活力拠点の形成を図るとともに、これらを連携するネットワークの形成を図る。

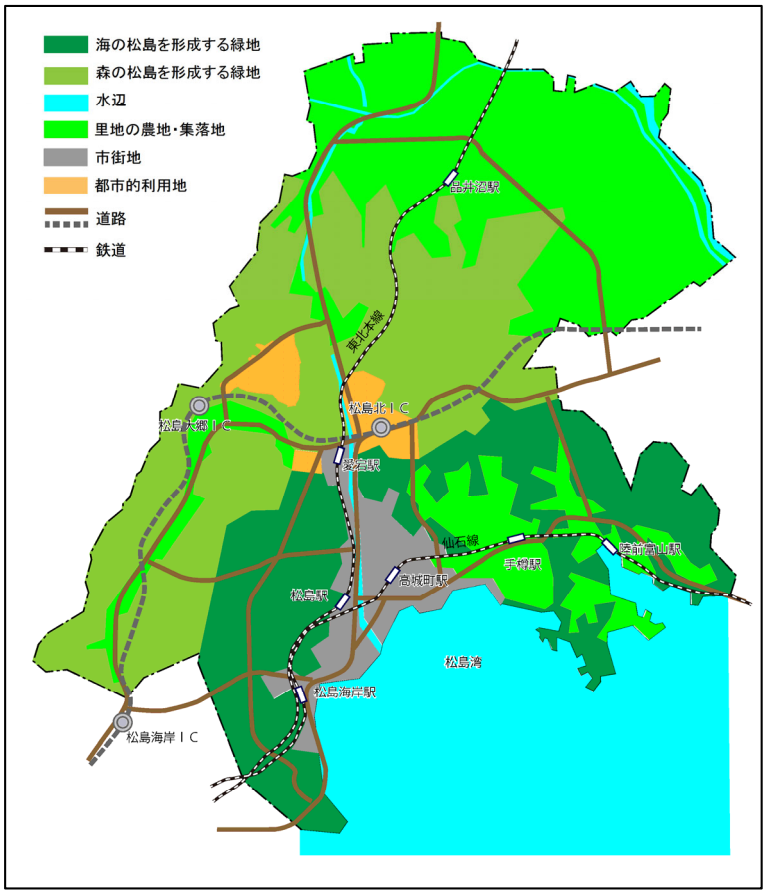
4-2-2 将来都市構造実現の考え方

(1) 豊かな自然と共生する都市構造の考え方

松島湾等に面した緑地は、一体となって日本三景松島を形成しており、特別名勝松島として、引き続き、自然環境の保全を図るものとする。

また、松島町の魅力は、これら海の松島だけではなく、内陸部の樹林地及び農地・集落地も豊かな自然地としての魅力を有していることから、海岸部だけでなく内陸部を含めた自然環境の保全とそれらと調和した都市的土地利用との共生を図る。

【自然と共生する都市構造実現に向けて考慮すべき自然的要素】



(2) 少子高齢化・定住促進等に対応した暮らしを豊かにさせる都市構造の考え方

① コンパクトな市街地の形成と機能の集約

松島町は、海岸部に比較的コンパクトな市街地が形成されている。

この市街地については、高城町駅前や都市計画道路高城本町線沿道の中心商業拠点の整備充実を図るとともに、JR愛宕駅周辺に新たな交流拠点としての充実を図る。これら二つの拠点を連絡し、多様な都市機能が集積する国道45号を中心に、高城川沿川を含めた活気ある都市軸の形成を図る。松島町の市街地は、これら二核一軸の周辺に住宅市街地をコンパクトに配置した構造とする。

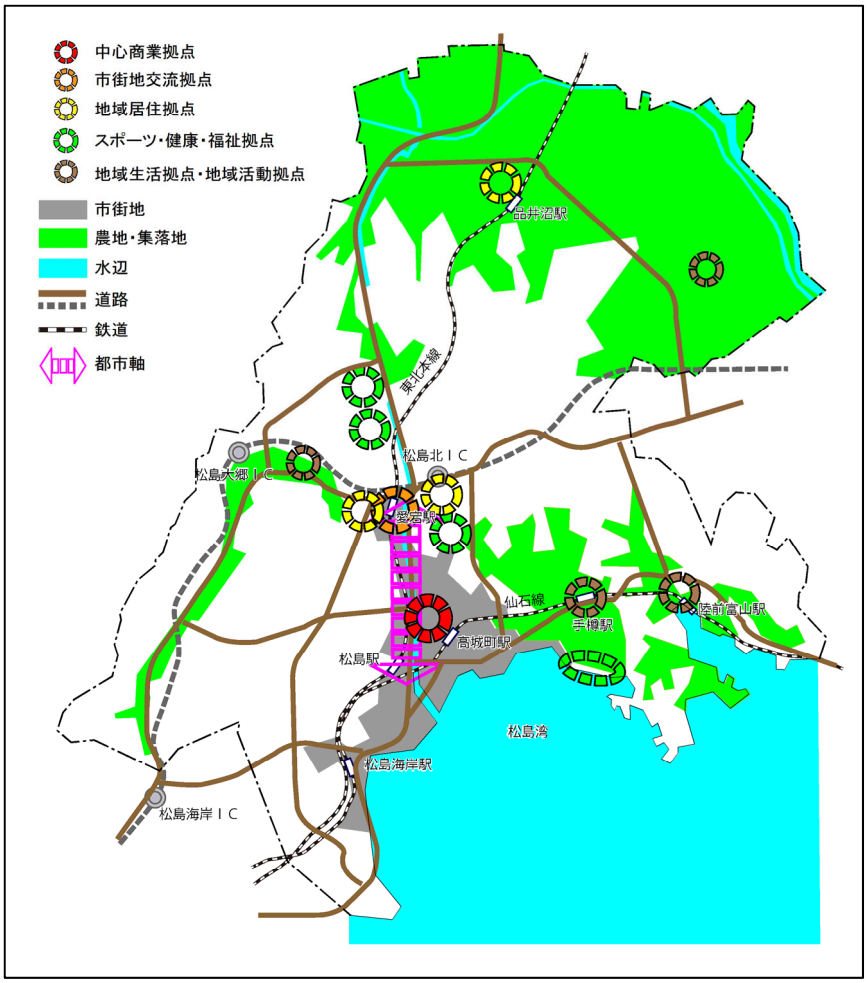
② 地域拠点等における少子高齢化・定住促進に対応する日常生活の利便性等の向上

松島町の集落地は、JR仙石線の手樽駅及び陸前富山駅周辺、JR東北本線の品井沼駅周辺等に分散して分布している。これら鉄道駅前地区での地域生活拠点、主要な集落等での地域活動拠点のあり方について検討し、周辺地域住民の日常的生活の利便性向上を図る。

③ 市街地や地域拠点等を連絡する日常生活ネットワークの形成

これらの市街地や地域生活拠点等を鉄道や生活幹線道路以上の機能を有する道路によりネットワーク化を図り、地域生活拠点等へのアクセス性の向上等に努めるものとする。

【暮らしを向上させる都市構造に反映するための要素】



(3) 広域交通基盤の活用による新たな活力を創出する都市構造の考え方

① 国内外の観光客が集う観光交流拠点を結ぶネットワークの形成

広域交通基盤の充実やインターネット等による国内外への情報発信等による観光客のさらなる増加を目指すとともに、従来の観光拠点の整備・充実、新たな観光交流拠点の形成及びそれらのネットワーク化を図る。

市街化区域内の松島海岸周辺市街地において観光商業拠点の形成を図るとともに、町内各所に分布する特色のある自然資源や眺望点、歴史的資源等を活用するため、バス路線の充実や景観を生かした歩行者の周遊性の向上等による選択性のあるネットワーク化を図る。

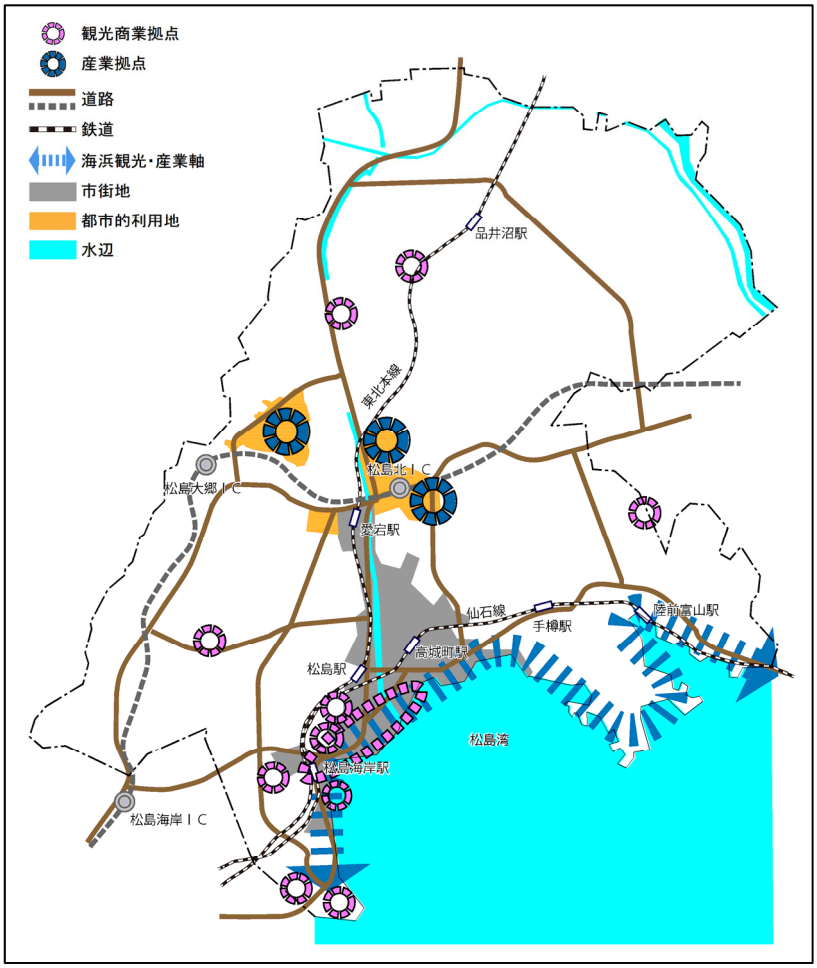
② 広域都市基盤の整備・充実を活用した新たな活力拠点の整備・誘導

三陸縦貫自動車道や国道45号等の整備・充実による時間距離の短縮や物流量の拡大等がもたらす仙台都市圏と三陸沿岸地域との広域連携を活用した新たな産業拠点の誘導・形成を目指す。

③ 自然環境に調和した観光交流・産業拠点の分散配置

内陸部の山林等への新たな産業の誘致や海浜・内陸部での新たな観光資源の活用を図る際には、周辺の自然環境を大きく改変することのないよう、大規模に集中させず分散的な配置に留意するものとする。

【新たな活力を創出する都市構造に反映するための要素】



4-2-3　将来都市構造

将来都市構造実現の考え方を踏まえ、松島町の将来都市構造は、次のゾーン、拠点、軸により構成する。

(1) ゾーン

松島町の土地利用の構造は、次の三つのゾーンで構成する。

① 市街地ゾーン

市街地ゾーンは、特別名勝松島の区域内に位置する観光商業及び中心商業の拠点と住宅地からなる現市街化区域で形成される範囲と、現市街化区域の中心商業拠点に隣接する明神地区及びJR愛宕駅周辺地区の範囲とする。

② 特別名勝松島ゾーン

特別名勝松島ゾーンは、主に、特別名勝松島及び県立自然公園に該当する松島湾、緑地、農地・集落地等で構成される次の範囲とする。

・松島湾保全地

風光明媚な松島湾全域の海岸、島々、海を松島湾保全地として保全を図る。

・景観保全緑地

市街地西部の松島湾に面する山地部の緑地一帯及び市街地東部の谷筋が入り組んだ丘陵地樹林地を景観保全緑地とし、松島湾の景観を構成する重要な自然緑地としての保全を図る。

・景観保全農地・集落地

市街地東部の平坦地に広がる農地及び集落地を景観保全農地・集落地とし、特別名勝松島の景観を損なうことのないよう景観保全緑地と一体となって里地里山の原風景の保全を図る。

③ 緑・農・都共生ゾーン

緑・農・都共生ゾーンは、特別名勝松島ゾーンの北及び西部に位置する三つの土地利用で構成するものとする。

・都市的利用地

特別名勝松島保全ゾーン北側に隣接する緑地内に、新たな交流及び産業等の施設を都市的利用地として拠点的に配置し、自然豊かな緑と都市施設が共生する地区の形成を図る。

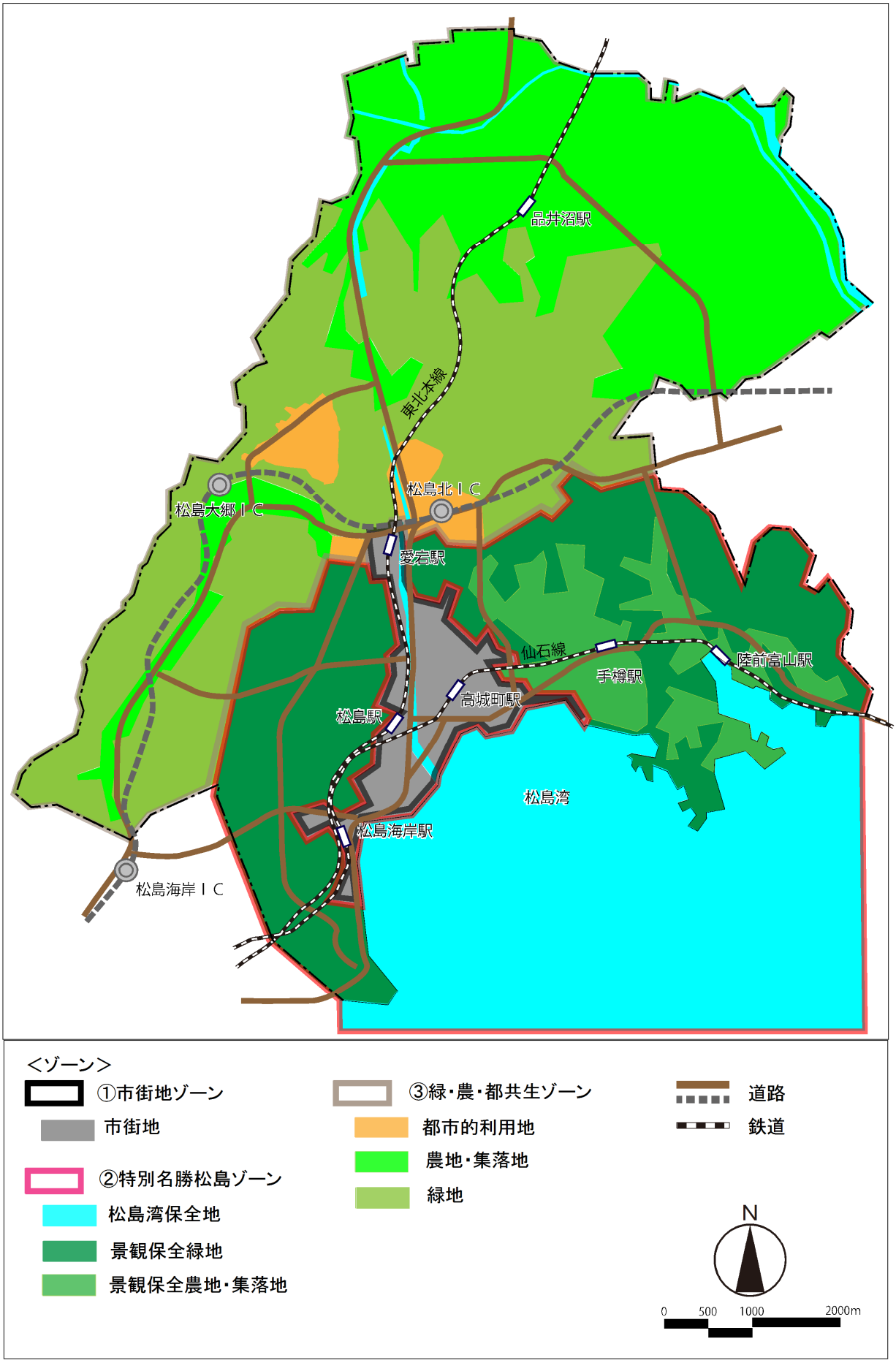
・農地・集落地

主要地方道仙台松島線沿道の農地及び集落地と、町北部の吉田川及び鳴瀬川沿川の農地及び集落地等を農地・集落地に位置づけ、その保全を図る。

・緑地

特別名勝松島ゾーンの北及び西部に位置する丘陵地から、都市的利用地、農地・集落地を除いた地域を緑地に位置づけ、その保全を図る。

【都市ゾーン図】


品井沼駅
東北本線
松島北ＩＣ
松島大郷ＩＣ
愛宕駅
仙石線
手樽駅
陸前富山駅
高城町駅
松島駅
松島湾
松島海岸駅
松島海岸ＩＣ
<ゾーン>
①市街地ゾーン
市街地
②特別名勝松島ゾーン
松島湾保全地
景観保全緑地
景観保全農地・集落地
③緑・農・都共生ゾーン
都市的利用地
農地・集落地
緑地
道路
鉄道
N
0
500
1000
2000m

（2）拠点

人々が働き、集い、憩い、交流する等、様々な都市活動や都市的サービスを享受する7拠点を配置し、松島町の活力・交流・コミュニティの振興を図る。

① 観光商業拠点

JR松島海岸駅、松島海岸周辺市街地、瑞巌寺等の歴史的建造物及びその他町内に点在する歴史・観光資源等は、国際観光都市松島の観光拠点として、優れた景観や歴史・文化を体感できるまち並みや歴史的遺産として保全を図るとともに、国内外の人々が訪れ、交流し、滞在する拠点として保全・整備を図る。

② 中心商業拠点

高城町駅前や都市計画道路高城本町線沿道には、既存の商店や生活サービス施設等が集積していることから、その機能の充実を図り、中心商業拠点として活性化を図る。

③ 市街地交流拠点

JR愛宕駅を中心とする一帯は、新たな住宅市街地や周辺の産業拠点の形成に対応して、松島町北部市街地及び緑・農・都市共生ゾーンの新たな交流拠点として、商業、行政、コミュニティ等の機能の充実・整備を図る。

④ 地域居住拠点

JR愛宕駅周辺には、仙塩広域都市圏や現市街化区域内からの転入者等の住宅需要に対応することを目的に、既存集落の住環境の維持・保全を図りつつ、居住拠点の形成に努め、津波等の災害の心配のない、便利で快適な居住環境の提供を検討する。

また、JR東北本線品井沼駅前を北部地域の人々の生活の中心となる居住拠点に位置づけ、既存集落の維持と地域住民の日常生活の利便性向上を図る。

⑤ 産業拠点

都市的利用地周辺には、三陸縦貫自動車道松島北ICと同松島大郷IC及び国道45号と同346号という広域交通が整備されており、これらの交通利便性を生かした新たな内陸型工業等の産業誘致を図り、周辺の緑との調和に配慮しつつ新たな産業拠点の形成に努める。

⑥ スポーツ・健康・福祉拠点

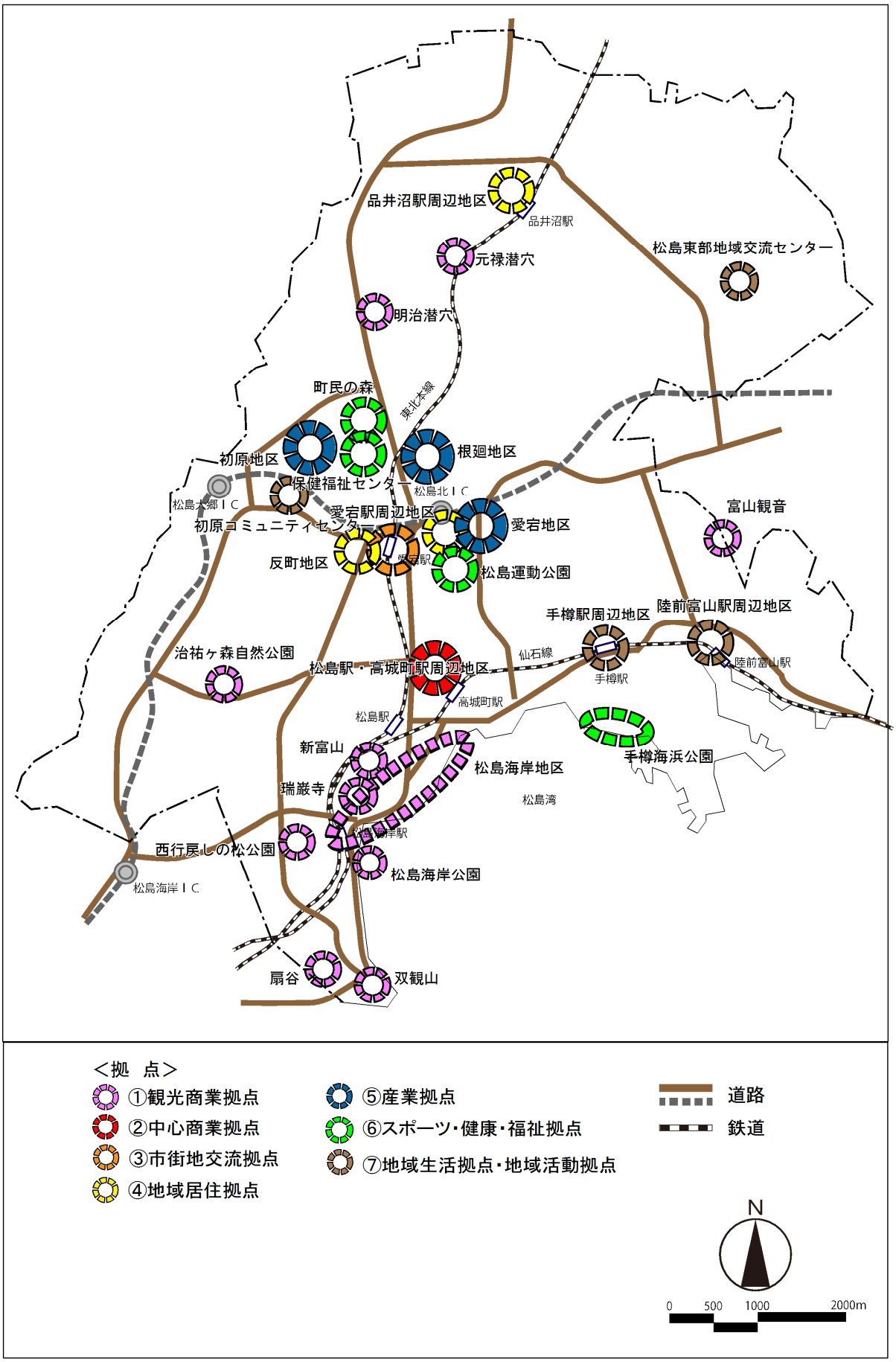
市街地北部の既存市街地や地域居住拠点等に近接する多目的運動広場、野球場、テニスコート、ゴルフ場、温水プール等を有する松島運動公園を、松島町のスポーツレクリエーション拠点として位置づけ、適切な維持・管理に努める。

また、住民の健康・保健・福祉の維持・増進を図るための拠点として、保健福祉センター、町民の森、野外活動センター、老人保健施設が立地する一帯を位置づけ、その適切な維持・管理に努める。

⑦ 地域生活拠点・地域活動拠点

JR仙石線手樽駅前、同陸前富山駅前を地域生活拠点に位置づけるとともに、初原地区や北小泉地区の中心集落地を地域活動拠点として、地域生活拠点を補完する拠点として位置づける。

【都市拠点図】


品井沼駅周辺地区
品井沼駅
元禄潜穴
松島東部地域交流センター
明治潜穴
町民の森
東北本線
根廻地区
初原地区
保健福祉センター
松島北ＩＣ
松島大郷ＩＣ
愛宕駅周辺地区
初原コミュニティセンター
愛宕地区
富山観音
反町地区
愛宕駅
松島運動公園
手樽駅周辺地区
陸前富山駅周辺地区
治祐ヶ森自然公園
松島駅・高城町駅周辺地区
仙石線
手樽駅
陸前富山駅
高城町駅
松島駅
新富山
手樽海浜公園
松島海岸地区
瑞巌寺
松島湾
松島海岸駅
西行戻しの松公園
松島海岸公園
松島海岸ＩＣ
扇谷
双観山
＜拠　点＞
①観光商業拠点
②中心商業拠点
③市街地交流拠点
④地域居住拠点
⑤産業拠点
⑥スポーツ・健康・福祉拠点
⑦地域生活拠点・地域活動拠点
道路
鉄道
N
0
500
1000
2000m

（3）軸

地域や拠点を相互に連絡するとともに、ゾーンの骨格を形成する四つの軸を配置し、その充実と保全を図る。

① 交通軸

・広域交通軸

三陸縦貫自動車道、国道45号、国道346号及び主要地方道仙台松島線は、松島町の南北を縦断し、中心市街地と周辺地域を連絡するとともに、仙台市及び気仙沼市等を連絡する広域の重要な広域交通軸として位置づける。

・地域回遊軸

広域交通軸と一体となり、町内各所の地域や拠点、観光資源等を回遊することのできる地域回遊軸を設定し、住民の日常生活の利便性を高める交通軸として位置づける。

② 都市軸

海岸部の観光商業拠点と内陸部の新たな交流拠点とを連絡する国道45号を都市軸として位置づけ、二つの核を連絡するとともに、松島町の中心市街地に近接する高城川沿川を含めた活気あるシンボル的な都市軸の形成を図る。

③ 海浜観光・産業軸

松島湾を望む海岸線一帯は、日本三景松島の景観形成上の重要な要素であるとともに、訪れる人々が集い、憩い、交流する場として過ごすレクリエーション空間でもある。そのため、海岸線全体を海浜観光・産業軸として位置づけ、景観や自然の保全を図るとともに、親水施設や公園・緑地等の充実に努める。

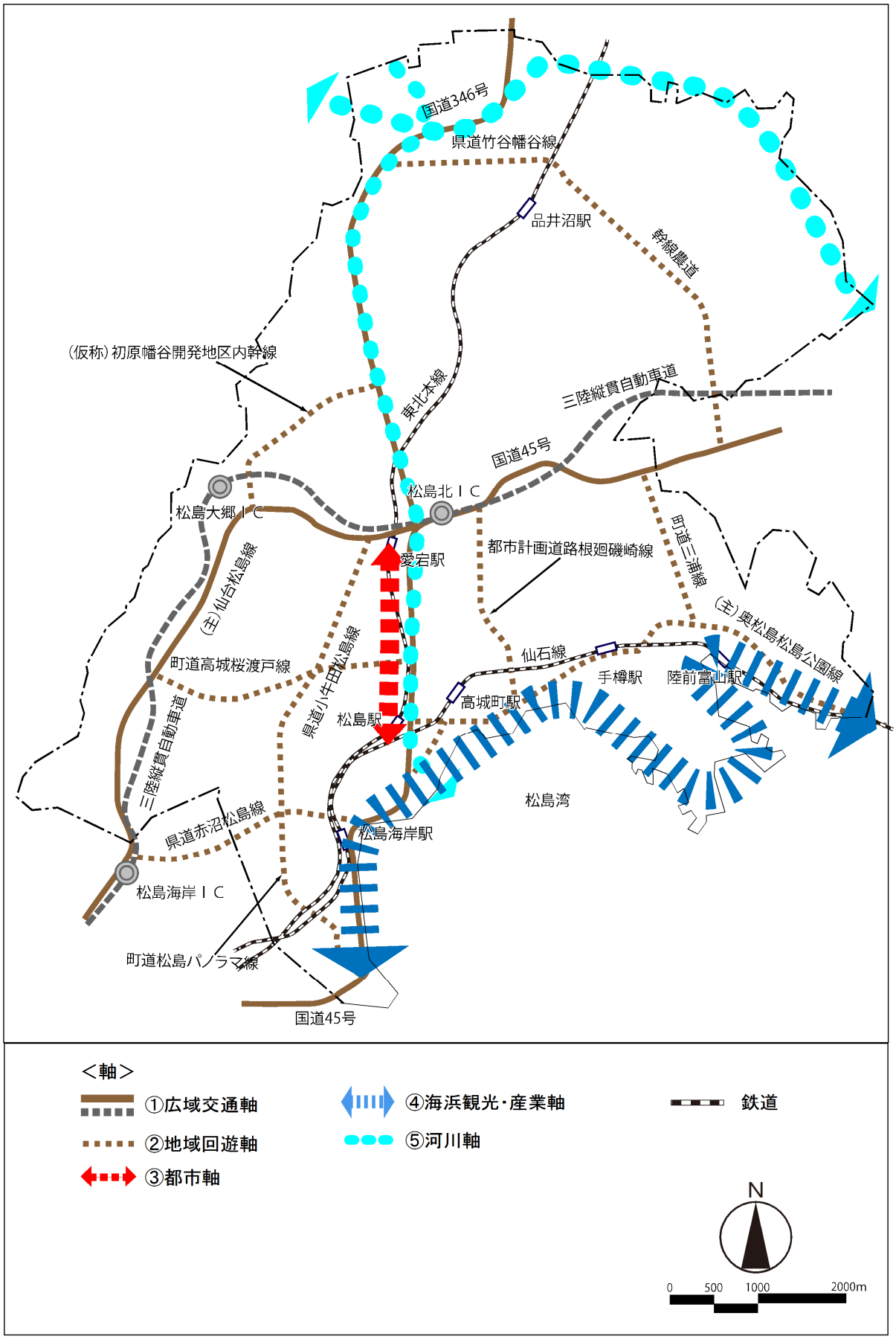
また、沿岸には漁港や漁業関連産業施設等が立地しており、東日本大震災の被害からの早期復興に努める。

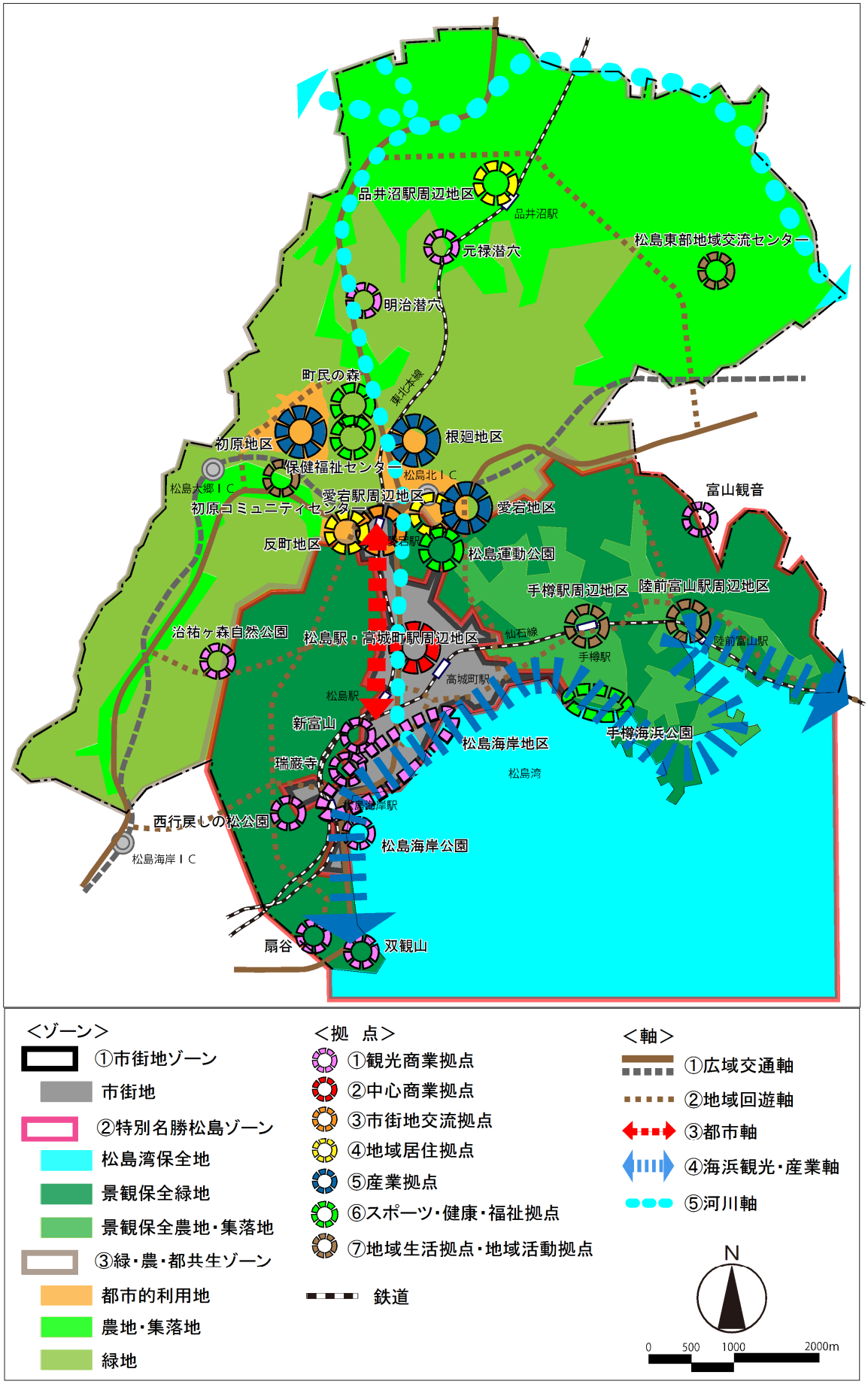
④ 河川軸

高城川は、松島町のほぼ中心を南北に縦断する河川であり、都市軸に並行する河川軸として位置づける。この高城川の水質の保全を図るとともに、水と緑の潤いある河川軸の形成を図る。

また、松島町北部及び北東部を流れる吉田川及び鳴瀬川は、沿岸の農地と一体となった自然河川の軸としてその保全と水質の保全に努める。

【都市軸図】


国道346号
県道竹谷幡谷線
品井沼駅
幹線農道
(仮称)初原幡谷開発地区内幹線
東北本線
三陸縦貫自動車道
国道45号
松島北ＩＣ
松島大郷ＩＣ
愛宕駅
都市計画道路根廻磯崎線
町道三浦線
(主)仙台松島線
(主)奥松島松島公園線
県道小牛田松島線
仙石線
町道高城桜渡戸線
手樽駅
陸前富山駅
高城町駅
松島駅
三陸縦貫自動車道
松島湾
県道赤沼松島線
松島海岸駅
松島海岸ＩＣ
町道松島パノラマ線
国道45号
＜軸＞
①広域交通軸
②地域回遊軸
③都市軸
④海浜観光・産業軸
⑤河川軸
鉄道
N
0
500
1000
2000m

将来都市構造の要素（ゾーン、拠点、軸）を踏まえ、将来都市構造図を以下のとおり設定する。

【都市構造図】